

第1回 徳島ガラススタジオのあり方検討会議 会議録

開催日時 令和7年8月4日（月）13時30分～

- （事務局） 挨拶
- （事務局） 委員紹介及び事務局紹介
- （事務局） 会長互選・副会長指名
- （委員） 会長挨拶
- （委員） 副会長挨拶

【議題 徳島ガラススタジオの現状と課題】

- （事務局） 会議資料説明

今の説明について何かご質問ご意見ありますか。

- （委員） 歳入の件について、先ほど、自販機等の収入があるということですが、講座の受講料はどうなっているのでしょうか。

- （事務局） 講座の受講料に関しましては、指定管理者が直接収入しておりますので、徳島市ではわかりません。

講座の受講料だけで、運営を賄うことができない状態であるので、毎年、1,700万円あるいは1,800万円程度、徳島市から指定管理者に指定管理料を支出している状況です。

手持ちの資料では、講座等の収入が毎年1,300万円前後です。そこに1,700万円から1,800万円の徳島市の指定管理料が入って大体3,000万円前後ぐらいの維持管理費と認識しています。

- （委員） 施設の概要の説明で、休館日は年末年始だけとあったが、土曜・日曜とか祭日は休みではないのですか。

- （事務局） 実際に休館日は6日間だけで、土日は開いています。

- （委員） 開いているのであれば、稼働率は100%ぐらいになるのですか。

- （事務局） 何をもって稼働率というかにもよりますが、年間ですから年末年始を除いて、ずっと建物自体は開いていて、中に講師の方もいる状況です。

- （委員） 建物自体は開いていて中の施設を利用しているというのは、どんな状況ですか。

- （事務局） 中に入るのは当然可能ですので、そこでインストラクターに、いろいろと話を聞いたり、日によっては体験をすることもできるような状況です。

- （委員） 実際に講習とか実技の予定はなくても、開館している間は自由ですということですか。

- （事務局） はい、そういうことです。

例えば講座でしたら、何曜日の何時とか決まっています。あとガラス体験は基本的には、随時受け付けになっていますので、余程の事がなければ体験ができると思っています。

- （委員） だけど、実際にガラススタジオに行ってガラス製品を作るとなると、やはり講座などで経験していないとできないと思います。人口の割合からみたら利用者が非常に少ないようですけど、こういう状況だから当初の目的を達成してないということで、閉館しようかということですね。

- （委員） 実は、ガラス独特の工場の運営の仕方があって、ガラスを溶かす炉の火は消すことができません。だから、年末年始だけまとめて消していて、通常はずっと1000℃以上の温度を保った状態に維持しています。一度切って冷えたら、今度1000℃以上に上げるのが非常に難しいので、おそらくこのガラススタジオも切らずに、電気炉あるいはガス炉にしても、365日つけっぱなしの状態だと思います。結局、温度

を上げるのに時間がかかり、燃料がたくさんかかるため、ほとんどの施設がつけっぱなしです。

(委 員) そうしたら費用がたくさんかかりますね。ここには出ていませんが、燃料費と人件費と、それぞれの費用はわかりませんか。

(事務局) 具体的には燃料費がいくらという細かい資料を持っておりません。先ほど運営費が3,000万円少々ぐらいということを申し上げましたけども、そのほとんどがインストラクターの人件費になります。

(委 員) 今何名でしょうか。

(事務局) 今4名です。事務の人が1人おりまして、あとインストラクターが3名です。

(委 員) 市が年間に負担している金額が1,700万円前後になっていますが、結局そのうちの燃料費はどれぐらいですか。

(事務局) 年度によって人件費の若干増減がありますが、令和5年度では人件費は1,460万くらいで、光熱水費が850万円くらいです。

光熱水費は炉だけではなくて、建物全体で使っている光熱水費です。年度によって異なりますが900万円までぐらいだと思います。

(委 員) 人件費がほとんどですか。

(事務局) そうです。人件費がほとんどです。光熱水費のほかには、その他の経費が毎年400万円から600万円程度かかっています。

(委 員) 収入が伸びないということは、バックにガラス工芸という産業や企業がありませんかと思いますが、そうした企業がないと思います。私が知っている範囲では、小さなガラス工芸品を作るようなところは若干あるかもしれませんが、企業という程度の規模はあまりないと思っています。ガラス工芸を商売にしているような企業、あるいは工芸作家がどのくらいあるのか知りたいのですが。

(事務局) 県内では阿波市に「アトリエ フムフム」というガラス体験ができるところがあります。それから、阿南市に「スタジオ アルビデオ 21」こちらもガラス体験をやっております。ただ、民間でガラスを扱っている企業や会社については、資料がございませんので、また次回までに調べておきます。

(委 員) これまでの取り組みの中で、この年度は、こういう形でこういう事業をやろうという、それぞれの年度で、どういう議論をして、事業をすると決められたのでしょうか。

(事務局) 指定管理者である徳島市文化振興公社にご検討いただいて、取り組みとしてやっていただいたところです。

(委 員) それは、始めたときも止めるときも、指定管理者で決めるという形で、市は全然、関与はしないということですか。

(事務局) 具体的な内容につきましては、公社でご検討いただいたところではありますが、毎年予算の時期、財政部局から、ガラススタジオについて、もっとなんとかできないかという指示や議論があり、それらを受けて、市から公社に、ご検討いただき、このような事業に繋がっております。

(委 員) 実際には他の地域で実施しているとか、そのような事例を参考にしながら、決めていただいたみたいなことなののでしょうか。

(事務局) そう聞いております。

(委 員) 面白いなと思ったのはアウトリーチで、令和5年で小学校2校、サンドブラストを実施して、208人が参加している。これはアウトリーチですから、小学校2か所に行ったということですね。

(事務局) そうです。学校の方に出向いて、サンドブラストの体験を行ったということです。

(委 員) これは小学校2校ということなので一つの学校で、100人参加者があったという

ことですね。

(事務局) 令和5年度の2ヶ所の実績で言いますと、城東小学校で、2年生49人、3年生53人、特別支援学級18人、いま言った順番で時間を分けて実施しました。

それから、富田小学校で、4年生が51人、6年生が37人、サンドブラスト体験をされています。

(委員) 今ご説明いただいたように、これは一定の需要があると思って続けるみたいなことは試みられないのですか。

(事務局) 今後、ガラススタジオのあり方もありますが、学校に行くのは、サンドブラストの機材が持ち運び可能ですので、実施は十分に可能だと思います。

今後のガラススタジオの形がどのようになるか分かりませんが、いずれにしても続ける方向で考えたいとは思っています。

(委員) 過去の活動ですが、文化的な価値というものがあまり書かれてないような気がします。私はその辺り専門分野ではないからよくわかりませんが、機能価値があるから規模を縮小して継続するというお話なのでしょうが、文化的にどんな効果があったかということも、人数だけでなく知りたい感じもしております。とは言うものの、今の状況を継続した方がいいと思っているわけではありません。

(事務局) 文化的な効果を図るのは難しいですが、例えば2ページ一番上の方の催し物体験の、ガラス移動作品展や、ガラスアートフェスタなど、様々な事業に市民の方に参加していただいて、ガラス文化に触れていただいたといくことは、一定できたのではないかと思います。

(委員) 二点あります。まず一点は、例えば、他県のガラス館に行ったら販売をたくさんしていますが、こちらでは、スタジオという性質からか販売にあまり力が入っていないように思いますが、どうなのかということです。

もう一点は、4ページの取り組みは主なものだと思うのですが、いろいろなイベントへの市民の方の参加がもう少し人数が欲しいという感じがします。例えば令和5年度のキッズガラスアートデイは、参加人数が13人で大変少ないので、年度内にもう1回するとか、親子での参加にするとか、そうすることで市民の方も参加しやすいのではないかなと思いました。

販売についてと、イベントについて、この二点について教えていただけたらと思います。

(事務局) ガラススタジオでは、作ったものの販売はしておりますが、実際それが何件売れたか、いくらになったかとうデータは今持っていないので、確認して次回報告します。

それから、取り組み人数の話ですが、確かに少ないです。今後、引き続きやっていくという前提で申し上げますと、回数の増加や、PRなどを含めまして事業のやり方、あり方の工夫が必要ではないかと思しますので、その辺についても、スタジオの今後の状況も踏まえた上で考えていきたいと思っております。

(委員) 受講生の人数を見ますと、永年、固定客だけで、新規受講生がほとんどないような感じがします。新規受講生を集めるような仕組みや広報の仕方、努力の仕方というのは、いつもどちらの担当がされているのでしょうか。

(事務局) 広報的な活動につきましては、指定管理先の文化振興公社で、やっていただいています。

資料3ページにあるように、ガラス工芸講座の受講者のほとんどの方が継続でありまして、4ページにあるような様々な体験活動後、興味を持っていただけましたら、新たな講座の受講に繋がるのではないかとということで進めてきたものです。しかしながら、4ページの表にあるように、例えばインターネット予約サイトや、アウトリーチ、異業種交流など、間口を広げるような事業はやっていましたが、なかなか講座の人数の増加に結び付いていないのが状況です。

(委員) 私は、いろいろなガラス工房、ガラススタジオを見学に行くんですけど、公的なところは場所が広いですが、この場合は狭い場所で立地条件が悪いです。広い場所で、近辺に遊具や公園があったり、それから展示販売場を併設したり、あるいはレストランを併設して、観光バスが立ち寄って、買い物もできる。そういうところが、賑わっているように思います。

そういう点で、立地条件の不利さもあるし、こういう品物は展示販売場があって、気安く気に入ったものが買えるような施設を併設しないと、なかなか自分達でセールスするのは非常に難しいので、いろいろな要素を加味した環境を作らないことには、今後の展望も見えないのではないかと思います。

(委員) これからというのであれば、仮にですが駅前という案がありましたけど、そこではできるものではない。一応スペースはあそこに空いてますよね。アミコ自体の中にはそういうことも示唆されるのでしょうか。

(委員) どこともガラススタジオという一つの独立した単体の中に、いろいろな併設された条件が加わっているところが多いです。だからビルの中にあっても、ちょっとした展示販売場の陳列場ぐらいしか考えられないように思います。ここでは常時電気炉を構えるというのは非常に難しいだろうし、体験ができるにしても、簡単なサンドブラスト的な、それと小さな釜だったらフィージング、色ガラスを乗せて溶かしたり、その程度ではないかと思います。広い場所があるので、吹きは絶対無理だと思います。

(委員) 最初の目的からいくと、大々的に、全国にアピールするとともに観光事業を中心に、産業化を図りと書いてありますけど、今の状況は、もう本当にギリギリでどうにもならないというような感じに私達は受け取っています。

それでいくと、このガラス工芸品を作ることを市民が楽しみにするというのであれば、不動コミセンの中にガラスを作るところがあると思います。これを単独でやろうとすると大変経費もかかりますし、建物も建て替えなければならない。この施設の中に一部を入れて、事業を継続することで、市民が楽しめるようにするというのも、一つの考え方ではないかなと思います。

(事務局) 不動のボーンチャイナですね。

(委員) 不動のコミセンの廊下を渡ってちょっと建物の離れたところにガラスを作る施設がある。

(事務局) ボーンチャイナは、焼き物です、陶器です。インストラクターの方が体調を崩されたということで、今年から中止していると聞いております。

(委員) 今後、ガラススタジオ単独で繁盛させて、たくさんの人に来てもらおうとしても、なかなか難しいと思う。これを続けるとしたら、いろいろな施設を併設するか、大きな施設の一部にこれを置くというやり方をしないといけない。

今は、同じ人が何年も来ているという状況もあり、結局これだけの経費を使うのであれば、もう少しやり方があるのではないかと思います。全体的に考えたら、経費の無駄遣いみたいに私は感じます。これから前に進めていくのであれば、もう少し大きな面で考えていかないといけないが、関連する企業は、徳島にはないと思います。失礼な言い方かもしれないが、税金の無駄遣いであるように思う。事業を縮小するのであれば縮小するで話を持って行った方がいいのではないですか。

(委員) ガラス工芸を盛んにやっているところは、それを商売にしている、しっかりした企業がある。徳島には、それが少ない。唐突にガラス工芸というものを持ち込んだから、元々その応援団としての企業、そのような企業がないわけです。かといって開館後、30何年の間に企業が育てばよかったのですが、企業が育たなかったということで、それを行政が一生懸命頑張って応援してきたかもしれませんが、行政だけでは無理があり、いくらでもやれるわけでもないという本質的な問題があるような気がしています。

(事務局) 過去の新聞の記事をみますと、ちょうどスタジオを作ったときに、全国的にガラス工芸が注目された時期でして、その中で、特色あるまちづくりをしていく上で何かないかということで、勝占町にガラススタジオを建設することになった。

それまでガラスが根付いていることはなかったと思います。そんな中で、観光事業を中心とした産業化を図っていかうとしたのだと思いますけれども、なかなかうまくいかなかったというところだと思います。

平成元年以降、バブルがはじけて、行政として、継続して支援してきたのだとは思いますが、施設については、これからを考えていく時期なのだと思います。

最初からガラスの文化があれば、もっと盛り上がっていたのかもしれませんが。実際、小樽に行くと、ガラス工芸を制作しているところはものすごく広くて、売り物もびっくりするぐらい置いてあって、それとはまた違いますよね。今から、観光バスが来るような施設に広げるのは非常に難しい話だと思います。ただ、これだけ長い間続いていますので、炉を継続することは難しいですが、一部の講座を駅前でするなど、その人たちも駅前で他の活動と繋がることができればいいとも考えたりしています。

(委 員) ガラスもいろいろなやり方があって、炉は非常に経費がかかり、広い場所と、扱う人のテクニックがいる。その他のサンドブラストとか、フュージングとか、トンボ玉を作る作業とかは、机の上でアルコールランプみたいな炎で作業するもので、少しの場所があればできます。

(事務局) 小樽に行くと子どもたちがやっています。

(委 員) そのぐらいの講座だったらできるのではないかと思います。

吹きガラスは場所も取るし、テクニックもいるし、技術職員でないとなかなか作業ができない難しさがあります。そういう種類に分けて存続させるというのも一つの方法ではないかとは思いますが。

今のところ、文化振興公社が、3年間の指定管理を受けています。他の指定管理は大体5年ですが、ガラススタジオだけは3年と短期間にくぎっています。それにはなにか意味があるのではないかと思いますでしたが、今の3年契約というのは、継続するということでしょうか。

(事務局) 3年間は少なくとも存続はします。今年、来年、再来年の3年間です。

ただ、庁内で協議した結果としましては、その3年の間に、次にどうするかというのを検討するということで、あり方検討会を開催することになりました。

(委 員) 場所的には建物と土地は市有財産ですか。

(事務局) 市の土地です。

(委 員) 駐車場が県有地ですね。

(事務局) 駐車場は県から借りています。

(委 員) 県有地駐車場料金が毎年32万円ほど払っているが、これは借地料ですね。

(事務局) 県にお支払いしている状況です。

(委 員) 他にご意見はございませんでしょうか。

他にご意見がないようですので、本日の議事は終了したいと考えます。

(事務局) 皆様、本日は貴重なご意見ありがとうございました。ご意見等を事務局で取りまとめ課題等を整理し次の会にお示ししたいと考えております。なお、次の開催は10月頃を予定しております。以上をもちまして、第1回徳島ガラススタジオのあり方検討会議を終了いたします。ありがとうございました。